

委員会リレーメッセージ

あなたの声が、病院をかえるんです！

CRM 委員会
みやぎ 宮城 ひとし 仁

さて、意見投書箱には年間どれくらいの件数が入り、どんな内容なのでしょう？
まず過去5年間の意見投書の件数推移と去年の実績から理由別の内容を調べてみました。

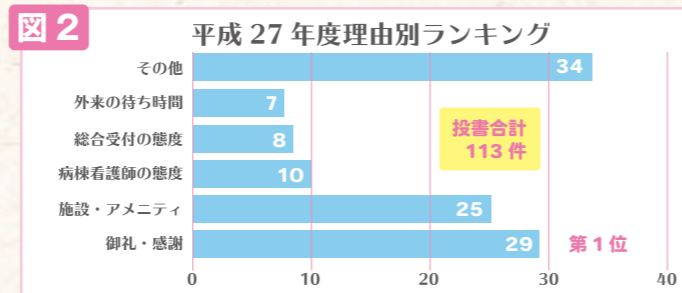
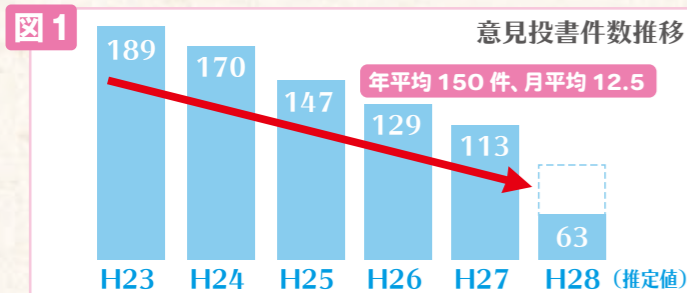


図1から毎年意見投書の件数は、確実に減ってる事がわかります。
また、図2から理由別の第1位は「御礼・感謝」で病院や職員に対する感謝の言葉が多く第2位は施設・環境に対する不満、第3・4位は職員への不満、第5位は待ち時間に対する不満と続き、少数意見はその他に括って34件、合計113件という内容でした。※意見投書のピークは新病院移転の翌年H22年の230件が最大でした。

しかし、今年の9月までの意見投書総数は、図1にも示す通り半年間で63件であり、このままの数値だと、前年並みの意見投書件数になると予想されます。この結果からも皆さんの声は確実に病院へ届き、病院施設や職員に対する不満不具合は少しずつ改善され、再発防止に繋がっていると云えます。更に先月は顧客満足度調査月間として「患者様満足度アンケート」をCRM委員会にて実施しました。機会があれば、その結果も誌面をお借りしてご報告させていただきます。

— どうぞ、あなたの声をお聞かせ下さい —

セルフケアカレッジのご案内

偶数月 (2月、4月、6月、8月、10月、12月) →第4火曜日 13時	奇数月 (1月、3月、5月、7月、9月、11月) →第4火曜日 19時	【日 時】 平成29年1月24日(火) 午後7時~ 【場 所】 大浜第一病院 1階 ふれあいホール 【タイトル】 なぜみんな我慢してしまう? 『おしりとお通じの病気』 【講 師】 大腸・肛門外科科長/仕垣 幸太郎 (しがき こうたろう)
---	--	---



医療法人おもと会
大浜第一病院

〒900-0005
沖縄県那覇市天久1000番地
TEL (098) 866-5171
FAX (098) 864-1874
WEB http://www.omotokai.or.jp/ohama1/



編集後記 Text: 総務課 金城

皆様お元気で新年をお迎えのことと存じますが、今年も笑顔(スマイル)は当院の情報、活動内容等をお届きしていきます。

また、読者の皆様楽しく読んで頂けるような広報誌を目指してまいりますので、これからも末永いご愛読をお願い申し上げます。

笑顔 顔

スマイル

1月号 | 毎月1日発行(第82号)
2017年1月1日(日)
発行 大浜第一病院 広報委員会
発行責任者: 大城 康一

〒900-0005
沖縄県那覇市天久1000番地
TEL: (098) 866-5171
FAX: (098) 864-1874
http://www.omotokai.or.jp/ohama1/ 大浜第一病院HP



病院長
おしろ こういち
大城 康一

新年明けましておめでとうございます。日頃より皆様から大浜第一病院へのご理解とご協力を頂き、心よりお礼申し上げます。さて、安倍政権は経済対策として2012年に3本の矢(金融緩和、財政出動、成長戦略)、そして2015年には新3本の矢(希望を生み出す強い経済、夢を生み出す子育て支援、安心につながる社会保険)を打ち出しました。これらアベノミクスの加速により、その成果は徐々に表れ経済も好循環の兆しが見え始めていますが、これも多大な財政出動の拡大などによる歳出増加に基づくものであり、結局は国の借金は益々増加をたどるばかりです。国の歳出として注視されているのが、急速な高齢化に伴い今後毎年約1兆円増えると見込まれている社会保障費です。超高齢化社会による医療費の増大は国家財政を圧迫しており、安倍政権下の経済・財政再生改革の中で社会保障費抑制の方針が打ち出されています。一方、いわゆる団塊の世代がすべて75歳以上の後期高齢者となる2025年に向けて、医療・介護ニーズが飛躍的に高まります。そのため、国は病院・病床の機能分化・連携を推進するための地域医療構想や、地域包括ケアシステムの構築を進めています。国は医療費の増大を産む高齢化社会に対して、病院の機能分化の促進及び在宅治療に向けての地域連携の強化を謳いながら、今後医療体系も画期的に変化させ社会保障費・医

療費を抑制することを唱えており、わが国の医療を取り巻く環境はさらに厳しい状況となることが予想されます。そのような状況の中、大浜第一病院は、急性期病院として最先端の医療を地域の皆様に提供できる施設をめざして、この2年間は新たな新規診療の取り組みを行いました。

県内唯一の施設として高度肥満患者に対する腹腔鏡手術(腹部を切らずに小さな穴をあけて行う手術)、頸動脈狭窄や脳動脈瘤に対するカテーテル治療、下肢静脈瘤(下肢のみみずのような瘤)に対するレーザー治療、さらに県内初の便失禁(便漏れ)に対する仙骨神経刺激療法も行われました。去年10月には、県立博物館で市民健康セミナーを開催し、これら最先端の治療をご紹介いたしました。そして、今年度は新規治療として婦人科疾患(子宮筋腫、卵巣腫瘍、子宮内膜症など)に対する腹腔鏡手術を開始する予定です。また、地域の皆様の健康増進に役立てて頂けるよう、去年も例年通り毎月1回当院ふれあいホールでセルフケア・カレッジも開催し、多くの地域の皆様にご参加頂きました。

今後も地域社会に貢献し、皆様方に満足していただける質の高い医療を提供するために職員一丸となって努力していく所存です。引き続きご理解・ご支援を賜りますようお願いを申し上げます。それでは、今年一年が皆様にとって、そして病院にとっても良い年になりますよう祈念いたしまして、念頭のご挨拶といたします。



大浜第一病院基本理念

- 1 医の原点は病者への奉仕にあります。患者様第一主義に徹した医療サービスに努め、患者様に満足して頂ける病院を目指します。
- 2 医学・医術の進歩を取り入れた最良の医療を提供できるように常に研修に励み、地域社会に信頼される病院を目指します。
- 3 地域の急性期医療ニーズに積極的に対応し、救急医療・夜間透析・健診活動・在宅医療など地域社会のお役に立つ病院を目指します。



第30回院内研究発表会

実行委員長 おくむら 奥村 みどり

11月5日(土)午後2時より院内研究発表会が開催されました。今年は14演題の発表があり、およそ190名の職員が参加致しました。今回の発表会は日帰りセンターの立ち上げや沖縄県唯一の大腸肛門外科による仙骨神経刺激療法など今年度から当院の新たな取り組みとして行ってきたことの題材も多く発表されました。また、各部署が業務への創意工夫した取り組みが随所に窺われる充実した内容となりました。今回の発表会等を通して医療と向き合い、患者様により良い医療を提供できるよう今後とも職員全員で取り組んでまいります。



セルフケア・カレッジ開催レポート

平成28年11月22日(火)に当院のふれあいホールにてセルフケア・カレッジ(健康講演会)が開催されました。「放っておくと危険! 危ない咳のおはなし」をテーマに馬場基男医師が講演しました。多くの人が咳をすると「風邪ひいたかな?」とか「体調崩したかな?」と考えても、もっと重い疾患にかかっていると考える人は少ないと思います。しかし、咳が3週間以上続く場合、咳の原因は感染症(インフルエンザ等)より肺がんや肺結核等の症状になっている可能性が増えてきます。つまり、咳は肺を空気中の細菌、ウイルスなどから守る重要な反応であり、肺の炎症、腫瘍等

の病気を知らせる重要なサインでもあります。そう語る馬場医師は咳の重要性、危険性を来場者に強く訴えていました。講演会の詳しい内容をご覧になりたい方は、講演会の動画を大浜第一病院1階健康せいかつ図書室にて視聴できますのでぜひご利用下さい。セルフケア・カレッジは毎月第4火曜日に開講しており、今月は「なぜみんな我慢してしまう?『おしりとお通じの病気』」と題して大腸肛門外科科長 仕垣幸太郎医師が講演を行います。病院スタッフ一同、あなたの健康管理の力となります。セルフケア・カレッジへのご参加をお待ちしております。



平成28年度 永年勤続医療従事者表彰式

去る11月16日に、沖縄県医師会主催により平成28年度永年勤続医療従事者表彰がダブルツリーbyヒルトン那覇首里城にて行われました。この表彰は勤続20年の方に贈られるもので当院からは喜屋武尚子さん(外来 看護師)、平良也寸志さん・玉城恵子さん(事務部)の3名が受章されました。また、表彰式・懇親会には病院長をはじめ各所属長が参加してスタッフの永年の労をねぎらっていました。皆さんおめでとうございます!!



左から喜屋武さん、玉城さん、平良さん

混声合唱団「アミーチ」による X'masコンサート

12月7日(水)午後1時からふれあいホールにて混声合唱団アミーチの皆様によるXmas演奏会を開催しました。「アミーチ」はイタリア語で「仲間」という意味なんです。年齢・性別・仕事、みんな違いますが、歌声一つで仲間になれるんですよ!」そう話す団長の幸地長興さん率いる結成21年、総勢118名からなる平均年齢75歳の皆さんは、今年3月に行われた第20回シニアコーラス東京フェスティバルにおいて、初参加にして23団体中1位の最優秀賞(厚生労働大臣賞)を受賞されるほどの実力です。

主宰の翁長剛おながたけしさんの指揮で、スキヤットによる「トルコ行進曲」をはじめ、馴染みのある「Amazing Grace」、「麦の唄」の演奏、最後は来場者と一緒に「ふるさと」を唄い、計6曲を披露されました。82名の歌声はホールいっぱい迫力ある素晴らしいハーモニーを奏で、来場者を魅了しました。

